

事業完了（廃止等）報告書

調査研究期間等

調査研究期間	委託を受けた日 ～ 平成31年3月13日
調査研究事項	<p>《委託研究Ⅲ》</p> <p>ウ. 教育課程・指導上の工夫に関すること</p> <p>生徒の学力に応じた授業の進め方や教材作成について</p>
調査研究のねらい	<p>○ 本市の夜間中学である京都市立洛友中学校においては、日本語の定着が不十分でコミュニケーションが取りにくい生徒が大半を占め、生徒指導の基本であるコミュニケーションに基づく生徒理解を十分に行うことが難しい。そこで、日本語指導の講師や学生ボランティア、通訳ボランティアを有効活用しながら、教職員等と生徒間の良好な人間関係を構築した上で、生徒の学力を的確に把握し、個々に応じた教材作成を進めていく。</p> <p>○ 平成28年度から受け入れている形式卒業者については、学んできた背景が多様かつ年代の幅も広く、学力に差があるため、適切な授業の進め方や使用する教材について研究する。</p>
調査研究の成果	<p>(1) 本年度の取組について</p> <p>在籍する年齢層が幅広く、また、基礎的・基本的学力が不足している生徒が存在していることを考慮した、日本語指導のあり方について検討会を実施し、次のとおり取り組んだ。</p> <p>① 日本語理解を進める取組</p> <p>習熟度別の日本語教室を充実し、最も基礎的な内容としては言葉の「聞き取り」の練習から始まり、「音読」に重点をおいた授業や、「漢字」の学習に力を入れ、学習に当たっては身近なテーマと関連付けて進めるなど授業展開の工夫に努めた。</p> <p>② 生徒の実態に合わせた教材の更新・改善</p> <p>授業でのグループ学習・個別指導の徹底化、ボランティアの活用に加え、昨年度に引き続き、テキストの更新・改善を進めた。また、今年度は特にPCで作成した教材をプロジェクタ投影して進める授業を研究し、教材開発に努めた。</p> <p>③ 個別の学習経験をさらに意味づける「総合的な学習」</p> <p>コミュニケーションによる人間関係の構築や、体験活動を通じた言葉の学習に重点を置き、授業のあり方を研究した。ゲーデニング教室や、さつまいも、サンド豆の収穫体験の実施、地</p>

域女性会の協力のもと行ったフラワーアレンジメント、茶道、ストレッチの体験授業などを実施し、言語活動の活性化、体験を通じた言語の習得を目指した。また、昼間部生徒と人権標語入りカレンダーの共同制作などの取組を実施し、生徒同士がコミュニケーションをとり学び合う機会を設けた。

さらに、高野辰之作詞・岡野貞一作曲による文部省唱歌である「ふるさと」の詩の群読に取り組み、文化祭において全員で学習成果を発表するとともに、「わたしのふるさと」と題し、自らの故郷について各生徒が発表する場を設けた。

加えて、陶芸教室など日本文化への興味関心を高める授業を用意し、新たに漢字を知り、覚えるきっかけづくりを図った

(2) 成果について

あいさつや簡単な日常会話ができるようになってくるなど、着実に生徒の日本語理解は進んだ。また「音読」や「漢字学習」の繰り返しにより、身近な単語やよく使う漢字を習得できている。

さらに様々な体験活動や文化活動、昼間部も含めた生徒間のコミュニケーションの活性化により、語彙の幅が広がり、関連することを更に学んでいこうとする姿も見受けられ、学習意欲の向上が見られ、文化祭での発表等の体験を通して、生徒は自信をもって、人前で話す力を身に着けることができた。

平成28年度から受け入れている不登校等の事情で義務教育を十分に受けることのできなかつた入学希望既卒者（形式卒業者）については、当初は、小学校低学年からほぼ全欠である等の要因で、環境への適応に非常な緊張を持っていたり、また、自分の殻に閉じこもり、学校に対して心から信頼できない気持ちになるなどの状態であったが、学びを通して少しずつ世界が広がり、また担任との関わりによる信頼関係の向上により、学習や行事に意欲的に取り組むようになり、他生徒との良好な人間関係の構築ができるようになった。さらに、高校進学も視野にいれ自己実現に向けて更に努力するようになる生徒もいるなど、確かな変化と人間的成長が見られるようになった。